TOUHOU project
fan book

NI TO

# 二兎

! for adult only !

回想開始
ちょっと出掛けて来るけど おいたなんかしてたら 後でヒドいわよ〜（はぁと）
——終了
鈴仙様何てことをおおぉっ!!
ええええええー 私なのおお!?
あ
アンタでしょう
畜生 この 逃げるな!!
ばっ 離して!!
じた
ばた
これがバレたら 私はきっと…

すみません
ごめんなさい!!!
ビクン
ビクッ
ふーあっ…
でぬ…
駄目よ～、ずっと入れてなさい

あら
もう駄目なの？
じゃ
手伝ってあげる♥
わぁあッ!?
ひょいっ
ぬっ
あしりっ
かあっ
また
ズ
ひぃああああっ!!!
ぴくっ
ププッ

おっ
おなかの中
ずぼっ
ずぼっ
ゴリゴリこすってるぅぅぅっ
いっ
ず
う～～ん
締まりがなーわねぇ・・・
やめ
あぁっ
そんなだからユルユルしちゃうのよっ
だから・・・
その分だらしない穴にフタをします
ずぶ
あっ
ひっ・・・い
あっ！ ずず～～
ゴリュ
いくわよ～～
だっ
だめっ

ってなるに決まってるっ
決まってるんだッ
…不安定でもない
やりそうだし
鈴仙だってマブないよ
なッ私!?
ガーン
貴女の罪はッ
監督不行届!!
ビシィ
威張んじゃねぇ
狂わすぞ
でも…
私だったらまっとこ…
ジャラッ…

ふぁ、具合はどうかしら？
師匠!?
瞳を使われたら厄介ですからね。ガマンしてね？
そんな…
ガ
ぱっ
わっ
そろそろ ここも限界なんじゃないかしら？

!!
ひぃっ
あっ
布地がコスれて…
あっ
そこ、だめぇ
はぁw
はひっ
吸っちゃ
や
私い…
師匠に…
犯されてる…
あんっ
師匠さまぁ
ぅぅん
んむっんっ
柔らかい…
師匠の舌…
!!
ちゅっ

んっ
じゅるっ
んっ
師匠の唾液が…入って来る…
師匠の身体から出たものが私の中に入って来る…！
はっ
あぁんっ
はぁあぁあぉッ
あらあら…
気持ち良くなったらオシッキになっちゃうかしら…

シュ
ル
ルッ
さぁ・もう見ていいわよ
存分に見て狂いなさい
!!
師匠たらっ
好きにしていいのよ?
ななんでこんなぁ
あーダメ
この日にで操されるっ
ほらっ
!!!
ぐぷっ
ぐぽっ
ぶるぶる
Wァッ

あははは！！最高だわ！
ズヌッ
ズルッ
貴女のいやらしいロマ○コに注ぎまくってあげるッ!!
ゴポッ
ドプッ
全部飲みなさい!!
ぶちゅ
ふぁいっ ひひょう
びゅる
るるるるっ
WW～
Wうフぶっ!!!

ミってなるんじゃないかなぁ＝
じゅるり
……ドＭめ…
目を覚ませ鈴仙ーーッ!!
ぎゅるるるる
ぷぎゅうッ
甘いわよ鈴仙ちゃん
テトロドトキシンより甘いわ!!
ズ
あの天才のことよ
罰を下すなら私達を等しく罰しめすに違いない!!
つまり・・こうなるのみ
へっへっへっ
本当にヤっちまっていいんですか先生っ

構わないわ
存分に嬲ってやって頂戴
ぞくっ
ひっ
ずぉ
あっ
いやぁ
ああアッ

セクッ
セックかせてお待ちかねかァ?
ヤッ違ッ
おほッ こりゃ凄ェ 絞まるぜ
ぱぁっ
いぎぃっ
コイツ ガキかと思ったら 結構やるなぁ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
ずあぁっ
ズチュ
マ○コ小せェから全部入らねえよ
オラッ 淫乱メスガキ 顔こっち向けろッ
ぶっかけるぞ

ひぃうぉぉッ
ひぃぉぉぉッ

いやぁ
あああっ
ガクガク

ということになるウサ
多分
ふ――――ん
……
脱兎ッ
ゼ――
んも――
逃げなくたっていいのにー
師匠ッ
すみません私たち――
いいわ
はて

貴女たち…
こんなのどうやっていいの
「モノ」の損失なんてことは「永遠」の前ではプラスにもマイナスにもならないことよ
壊れたところで直すか代えるかすれば良い…こんな些事で慌てる必要は——私には無いわ
そう——
そうですか
良かった
それより二人共？
はい!?
——は
はい
怪我は無い？
し
師匠ッ
だって貴女たちは大切ね——

大切な大切な
姫の可愛いペットだものねぇ
さぁ～片付けるわよー
下手に怒られるより辛いわ…
あんなの今に始まったことじゃないウサ
あきらめてます
ポ
お手のもの
ぞうきんがけ
ペッ
どうしよう
あくまでも修繕費は貴女たちの食費から天引きです。
鬼だ!!

東方プロジェクト
ファンブック

# 二兎

ぷれぜんてっどばい
遥夢社

# 後書という名目の駄文と奥付

ごきげんよう、源五郎です。
この度は本書を手にとって頂き真にありがとうございます。

さてさて、東方での発行物も五冊を数えました。
今回は兎さんズでやらせてもらいましたが、お楽しみいただけたでしょうか。
永琳先生は私の中ではデフォで変態さんですのでこんな内容になってしまいましたがー。

この本、表紙はダークな雰囲気ですが中身は特にそんなことも無い味付けです。
とにかくいろいろとやりたかったが為に多分にカオスですが。
うっかり鬼畜とか調教とかそんな内容を期待した方はすみません。
源五郎はダークなのが苦手なのでそんな風味は出せません、どうか悪しからず。
いつかはやってみたいものですがねイヒヒヒヒ。

どこまでも兎本でしたが、本当は師匠も絡ませたかったんです。
ええ、そりゃもうネチョネチョと。あと姫も、ニートも。
本のタイトルが二兎なのはニートのもじりだったんですよ。
せめて輝夜の片鱗を出してあげようとすみません嘘です今思いつきました。
いかんせん力不足か、やりたいことがやりきれません。精進精進。
あと、実はてゐとうどんげの胸は同じ位の大きさとして描きました。
てゐが大きいんじゃなくてうどんげが小さいんだというロマンチックな理由がそこにありまして。
でも本当はてゐが大きめでうどんげが小さめという二重のエクセレントな陰謀ですハラショー。
てゐについては、ロリロリしくぷにぷにしてるんだと妄想したらなんだか堪らなくなってきました。
あ、本文中なんの説明も無しに永琳が男根を生やしておられますが、あれは永琳が天才だからです。
あの程度の出したり引っ込めたりはそれこそ朝飯前なのです。そういうことにして下さい。
それと、描写しされてませんがそこのところはきちんとフタナリです。
オルタネティブです。
思いついたから言っただけです。反省してます。

ところで、今回執筆中に風邪をどっ引いてしまい、大層慌てました。
体調の悪化も辛いものがあったのですが、仕事含むスケジュールがガタガタに…。
体調管理は大事だな、という認識を新たにしました。今更。
まあ、締め切りが押していたので気にせず無理やり動いてましがw
そうでなくても冷え性なので、冬場は動きが鈍いんです。
あー早く暖かくならないかしら。

それでは、またいずれどこかで出会える光栄を願って。

2006年12月10日 源五郎

Special Thanks/渡辺さん


## 二兎

発行■2006.12.31

原作■東方project
(上海アリス幻樂団 様)

著者■源五郎
(遥夢社)

印刷・製本■POPLS 様

HP■http://www.geocities.jp/youmusya/index.html
「遥か夢の社」

連絡先■youmusya@yahoo.co.jp
ご意見ご感想等ございましたら、なんでもどうぞ。